

1 はじめに

会員の皆様方におかれましては、校友会活動へのご理解、ご協力に対し、紙面をお借りして感謝申し上げます。

今年度は、本校友会も記念すべき50周年を迎え、平成27年10月17日に50周年記念総会を開催し、50周年記念誌を発行いたしました。50周年記念誌の発行にあたって寄稿いただいた会員の皆様につきましては、深く御礼申し上げます。

本校友会の財産は、企業、行政の垣根を超えて、また、先輩、後輩の世代を超えて、「つながる」ことができるところでございます。今後も、校友会活動がより活発に行われるように、皆様方のご意見を伺いながら、事務局一同、知恵を絞ってまいりますので、よろしく願いいたします。

2 平成27年度の活動状況

○大学本部関係

平成27年6月19日（金）に日本大学理工学部校友会通常総会が開催されました。

平成27年10月30日（金）に日本大学工科系校友会支部長会議が開催されました。

○幹事会 平成27年7月8日（水）（於）埼玉会館

幹事さんにお集まりいただき、平成27年度の名簿作成と会費の徴収をお願いすると共に、平成26年度事業計画と平成27年度事業計画（案）について説明しました。

○役員会・幹事会 平成27年9月10日（水）（於）さいたま市民会館うらわ

役員と幹事さんにお集まりいただき、平成27年の総会議案（事業計画、予算、決算、会則改正及び役員の改選について）を御審議いただきました。また、総会に併せて開催する50周年記念行事について説明しました。

○平成27年度第49回総会（50周年記念総会）及び記念行事

平成27年10月17日（土）（於）TKP大宮カンファレンスセンター

御来賓として理工学部学部長の山本寛先生、生産工学部学部長の落合実先生、工学部の古河幸雄先生、日本大学校友会埼玉県支部の堀部和政様をお招きし、母校の状況などにも触れていただいた御挨拶をいただきました。総会は93名の会員の皆様に出席をいただき、平成26年度の事業報告と決算、平成27年度の事業計画と予算、会則改正及び役員の改選を審議し、原案のとおり承認され、新会長に西成秀幸が就任いたしました。今後は西成新会長のもと、新体制で校友会を盛り上げてまいりますので、よろしく願いいたします。

総会後は50周年記念行事を開催し、埼玉県知事の上田清司様、さいたま市長の清水勇人様から祝辞を御披露した後、50周年記念誌の披露と、さいたま市の杉田様より「国際スポーツイベントとさいたま市」と題して「さいたまクリテリウム」と「さいたま国際マラソン」について御講演をいただきました。

総会の翌週に開催され、もはや恒例となりました「さいたまクリテリウム」については、昨年のレースの動画等を交えながら、自転車レースの面白さ、醍醐味を、平成27年11月に開

催され、リオデジャネイロオリンピック女子マラソン代表選手選考競技会でもある「さいたま国際マラソン」については、コースの概要などをご説明いただきました。そして講演の最後には、さいたま市の自転車のまちづくりについて御説明頂きました。杉田様、大変興味深いお話をありがとうございました。

今後も、会員皆様からの積極的な発表を期待しております。どうぞよろしくお願いたします。

総 会（西成新会長挨拶）



50周年記念行事

○現地見学会 平成27年12月12日（土）

今年度は山梨県に向かい、都留市にある県立リニア見学センターと甲州市にある祝橋、大日影トンネル、勝沼トンネルワインカーヴを見学しました。

① 山梨県立リニア見学センター

現在、実用化に向けて開発が進められている、リニアモーターカーの走行試験の様子を見学しました。また、体験施設や模擬実験、展示物などを通じ、これまでのリニア開発の歴史や超電導リニアの技術について、理解を深めました。



リニアモーターカー走行試験の様子

② 祝橋・大日影トンネル・勝沼トンネルワインカーヴ

甲州市にて、地元産の葡萄やワインの輸送を通じ、経済発展に貢献した過去の土木施設を見学しました。ここからは甲州市観光協会のボランティアガイドの方々に案内をして頂きました。

祝橋は昭和6年に開通したコンクリートアーチ橋です。現在は有形文化財に認定され、地元のシンボルになっています。

大日影トンネルと勝沼トンネルワインカーヴは、それぞれ鉄道の廃トンネルを有効利用したもので、土木遺産と近代化産業遺産に認定されてい



大日影トンネル入口

ます。

大日影トンネルは、当時のトンネル内部の雰囲気そのままに、遊歩道として内部を整備したものです。実際に参加者の皆さんで、トンネル内を歩きながら見学しました。

勝沼トンネルワインカーヴは、トンネル内をワインの貯蔵庫として再利用したものです。こちらも貯蔵庫内部の様子を見学しました。

このように今年度の見学会では、最先端の技術と過去の土木遺産との新旧技術に、同時に触れることができました。

大勢の御参加、ありがとうございました。



ワインカーヴ内部の様子

平成28年1月